

参考資料

(本書は 2025 年 4 月 30 日米国で発表済みの英文プレスリリースの和訳です。解釈に相違が生じた際には、英語版を基準とします。)

2025 年 5 月 1 日

Aflac Incorporated は 2025 年度第 1 四半期の業績を発表 2025 年度第 1 四半期の純利益は 2,900 万ドル 2025 年度第 2 四半期配当を決定

Aflac Incorporated (以下、「当社」) は、本日、2025 年度第 1 四半期の業績を以下のとおり発表しました。

当四半期の収益合計は、前年同期の 54 億ドルから 34 億ドルとなりました。これは主に、前年同期の収益には、9 億 5,100 万ドルの資産運用益 (純額) が含まれていたのに対して、当四半期には、9 億 6,300 万ドルの資産運用損 (純額) が含まれていることによります。当期純利益は、前年同期の 19 億ドル (希薄化後 1 株当たり 3.25 ドル) から 2,900 万ドルの純利益 (同 0.05 ドル) となりました。

前年同期の当期純利益には、9 億 5,100 万ドル (希薄化後 1 株当たり 1.65 ドル) の資産運用益 (純額) が含まれていたのに対して、当四半期の当期純利益には、9 億 6,300 万ドル (同 1.76 ドル) の資産運用損 (純額) が含まれています。この資産運用損 (純額) は、一部のデリバティブ及び外国為替取引に係る損失 (純額) 8 億 8,800 万ドル、持分証券の公正価値が減少したことによる 6,100 万ドルの損失、並びに現在予想信用損失に係る 5,500 万ドルの引当金が、売却及び償還による 4,100 万ドルの利益 (純額) により相殺されたものです。また、減損はありませんでした。

当四半期の調整後利益*は、前年同期の 9 億 6,100 万ドルから 5.7%減少し、9 億 600 万ドルとなりました。当四半期の希薄化後 1 株当たり調整後利益*は 1.66 ドルと横ばいでした。変動投資収益は、当社の長期的な利益予想を 2,700 万ドル下回りました。投資収益 (純

額) には、日本セグメントにおける Make Whole 条項付証券の早期償還に伴う 1,600 万ドル (1 株あたり 0.02 ドル) が含まれています。為替レートが円安ドル高になったことによる 1 株当たり調整後利益への悪影響は、0.01 ドルでした。

当四半期の平均円／ドル為替レートは、前年同期の 1 ドル 148.67 円から、2.4%円安ドル高の 1 ドル 152.40 円となりました。

株主持分は、2024 年 3 月 31 日現在が 235 億ドル (1 株あたり 41.27 ドル) であったのに対して、2025 年 3 月 31 日現在では 263 億ドル (同 48.55 ドル) でした。当四半期末の株主持分には、保険準備金割引率の前提条件変更の影響による 39 億ドルの累積増加額が含まれているのに対して、2024 年 3 月 31 日現在の対応する累積減少額は 15 億ドルであり、投資有価証券及びデリバティブの未実現損 (純額) が 13 億ドル含まれているのに対して、2024 年 3 月 31 日現在の未実現利益 (純額) は 11 億ドルでした。株主持分に含まれる外貨換算未実現損は、2024 年 3 月 31 日現在が 47 億ドルであったのに対して、当四半期末では 45 億ドルでした。平均株主資本利益率は、当四半期は年率換算で 0.4%でした。

その他の包括 (損) 益累計額 (AOCI) を除く株主持分 (調整後純資産額*) は、2024 年 3 月 31 日現在が 286 億ドル (1 株あたり 50.22 ドル) であったのに対して、2025 年 3 月 31 日現在は 282 億ドル (同 51.98 ドル) でした。外貨再測定*を除く調整後純資産額は、2024 年 3 月 31 日現在が 238 億ドル (1 株あたり 41.68 ドル) であったのに対して、2025 年 3 月 31 日現在は 231 億ドル (同 42.61 ドル) でした。当四半期の外貨再測定を除く調整後株主資本利益率*は、年率換算で 15.6%でした。

アフラック (日本法人)

アフラック (日本法人) の当四半期の円ベースの保険料収入 (純額) は、主としてがん保険の内部再保険取引、及び短期払契約の払済化により、前年同期比 5.0%減の 2,565 億円となりました。調整後投資収益 (純額) は、主として変動金利収益の減少により、892 億円 (前年同期比 7.6%減) となりました。当四半期の円ベースの調整後収益合計は 5.7%減

少し、3,465 億円となりました。当四半期の円ベースの税引前調整後利益は、保険金給付金の減少により一部相殺されたものの、主に収益の減少により、報告ベースでは 8.7%減少し 1,100 億円となりました。為替変動の影響を除く、当四半期の税引前調整後利益は 9.8%減少しました。日本セグメントの税引前調整後利益率は、前年同期が 32.8%であったのに対して、当四半期は 31.8%に低下しました。

当四半期のドルベースの保険料収入（純額）は、7.4%減の 17 億ドルとなりました。調整後投資収益（純額）は、9.6%減の 5 億 8,600 万ドルとなりました。調整後収益合計は、8.1%減の 23 億ドルとなりました。税引前調整後利益は、10.9%減の 7 億 2,200 万ドルとなりました。

当四半期の新契約年換算保険料（販売）合計は、主に第一分野商品である「ツミタス」の販売が好調に推移したこと、最新のがん保険である「ミライト」が発売以降 2 週間を経過したことにより、12.6%増の 141 億円（9,300 万ドル）となりました。

アフラック（米国法人）

アフラック（米国法人）の当四半期の保険料収入（純額）は、販売及び契約継続率の改善を反映し、前年同期比 1.8%増の 15 億ドルとなりました。調整後投資収益（純額）は、主として変動金利収益の減少により、1.9%減の 2 億 200 万ドルとなりました。調整後収益合計は、1.3%増の 17 億ドルとなりました。税引前調整後利益は、保険料の増加や費用の減少が一部、保険金給付金の増加で相殺されたことにより、前年同期比 0.6%増の 3 億 5,800 万ドルとなりました。その結果、当四半期の米国セグメントの税引前調整後利益率は、前年同期の 21.0%から 20.8%となりました。

アフラック（米国法人）の当四半期の販売は 3.5%増の 3 億 900 万ドルとなり、これは団体向け商品の販売によるものです。

全社（アフラック（日本法人）及びアフラック（米国法人）を除く）及びその他

当四半期の調整後収益合計は前年同期比 32.0%増の 3 億 2,600 万ドルとなりました。この増加は主に、税額控除投資の減少により調整後投資収益（純額）が増加したことと、再保険取引による増加によるもので、これによって保険料収入合計（純額）も増加しました。保険金給付金合計及び調整後費用は前年同期比で 3,300 万ドル増加しました。これは主に、再保険取引と支払利息が増加した結果によるものです。税引前調整後利益は、前年同期が 300 万ドルの損失であったのに対し、当四半期は 4,300 万ドルの利益でした。

現金配当及び株主還元

取締役会は、2025 年度第 2 四半期支払いの四半期配当を 1 株当たり 0.58 ドルとすることを決定しました。この配当は、2025 年 5 月 21 日の営業時間終了時点の登録株主に対して 2025 年 6 月 2 日に支払われます。

当四半期、当社は 9 億ドル相当（850 万株）の自己株式を取得しました。2025 年 3 月 31 日現在、当社の自己株式取得承認枠の残枠は、3,880 万株となっています。

今後の見通し

当社の業績について、当社会長兼最高経営責任者であるダニエル・P・エイモスは次のように述べています。「当社が当四半期に非常に堅調な調整後利益を上げたことを喜ばしく思います。」

「日本での事業に目を向けると、アフラック（日本法人）の契約継続率が 93.8%となり、販売が前年同期比で 12.6%増加したことを嬉しく思います。最新のがん保険である「ミライト」をはじめとする第三分野商品に引き続き焦点を当て、これらの保険を第一分野商品の「ツミタス」を通じて新規の若中年層のお客様にご案内することに注力し続けています。」

「米国では、保険料収入（純額）が 1.8% 及び販売が 3.5% 増加したことに加え、契約継続率が 79.3% であることを引き続き嬉しく思っています。私たちは団体保険事業のすべての領域で、特に団体生命保険、就業不能保険、ネットワーク歯科保険で今目にしている勢いに勇気づけられています。引受規律の強化と募集人やブローカーの生産性の向上を通じて引き続きより収益性の高い成長を目指しています。保険料収入（純額）に改善が見られており、費用管理において堅実なアプローチを継続し、高い税引前利益率を維持しています。」

「当社は、慎重な流動性管理及び資本管理に対するコミットメントを維持しながら、強固な資本とキャッシュ・フローを創出し続けています。当社の運用資産は、引き続き堅調な投資収益（純額）を生み出しており、そのパフォーマンスに満足しています。2024 年に 42 年連続で増配を達成したという節目を大変重要であると考えており、強固な財務力により今後もその継続に努めていきます。当社は当四半期、9 億ドル相当の自己株式を取得しました。これからも成長への投資と長期的な事業効率化を推進するというバランスの取れたアプローチを継続していきます。」

*外国為替及びその財務諸表への影響についての説明、本文書において用いられている米国会計基準（GAAP）外の財務指標の定義及び米国会計基準（GAAP）外の財務指標から最も比較可能な米国会計基準（GAAP）の財務指標への調整については、後述の「米国会計基準（GAAP）外の財務指標」を参照ください。

アフラック・インコーポレーテッドについて

アフラック・インコーポレーテッド（ニューヨーク証券取引所のティッカー・シンボル AFL）は、フォーチュン 500 社の 1 社であり、ほぼ 70 年間にわたり、日米の子会社を通じて何百万ものご契約者及びお客様に経済的な保障と心の安心を提供しています。米国では、アフラックは補完医療保険を提供する最大手の会社です¹。日本では、アフラック生命保険株式会社は、がん保険・医療保険の保有契約件数で最大手となります。ご契約者が当社を最も必要とする時、ご契約者に寄り添うことを当社は誇りに思っています。

『Ethisphere』誌の「世界で最も倫理観の高い企業」のリストに 19 年連続で選出され（2025 年）、『フォーチュン』誌の「世界で最も賞賛すべき企業」のリストに 24 年にわたり選出を受けた（2025 年）ことについても当社は誇りに思っています。また、2021 年に責任投資原則（PRI）への署名を行い、11 年にわたりダウ・ジョーンズのサステナビリティ・インデックス（北米）（2024）に組み入れられています。通常健康保険が保障しない出費にどのようにお役立ていただくかや、当社についての情報は、当社のウェブサイト aflac.com あるいは aflac.com/espaol をご覧ください。また、投資家の皆様には、アフラック・インコーポレーテッド及びその企業としての社会的責任やサステナビリティに対するコミットメントについて、investors.aflac.com 中の「Sustainability」を通じて、より詳細にご理解いただくことができます。

¹ LIMRA 2023 U.S. Supplemental Health Insurance Total Market Report

当四半期の業績数値の補足資料は、aflac.com の「Investors」のページから入手可能です。

アフラック・インコーポレーテッドは、当四半期業績報告の電話会議の模様を、2025 年 5 月 1 日午前 8 時 00 分（米国東部時間）に、当社のウェブサイト aflac.com の「Investors」のページで公開します。

注：本文書の表においては、端数処理のため合計は計数の総和と必ずしも一致しません。

Aflac Incorporated 要約連結損益計算書

(単位:百万ドル。ただし、株式数及び1株当たりの数字を除く―無監査)

3月31日に終了した3ヶ月間:

	<u>2025</u>	<u>2024</u>	<u>増減率</u>
収益合計	3,398	5,436	-37.5%
保険金給付金(純額)	1,945	2,010	-3.2%
新契約費及び事業費合計	1,308	1,256	4.1%
税引前当期純利益	145	2,170	-93.3%
法人税等	116	291	
当期純利益	29	1,879	-98.5%
基本1株当たり当期純利益(単位:ドル)	0.05	3.27	-98.5%
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	0.05	3.25	-98.5%
1株当たり当期純利益計算に用いた普通株式数(単位:千株)			
基本	544,707	574,886	-5.2%
希薄化後	546,878	577,482	-5.3%
1株当たり現金配当(単位:ドル)	0.58	0.50	16.0%

Aflac Incorporated 要約連結貸借対照表

(単位:百万ドル。ただし、株式数を除く―無監査)

3月31日現在:

	<u>2025</u>	<u>2024</u>	<u>増減率</u>
資産:			
運用資産及び現金・預金合計	107,446	111,716	-3.8%
繰延新契約費	9,083	8,819	3.0%
その他の資産	3,729	4,207	-11.4%
資産合計	120,258	124,742	-3.6%
負債及び株主持分:			
保険契約準備金	78,828	85,364	-7.7%
社債等及びリース負債	7,751	7,912	-2.0%
その他の負債	7,341	7,929	-7.4%
株主持分	26,338	23,537	11.9%
負債及び株主持分合計	120,258	124,742	-3.6%
期末発行済普通株式数(単位:千株)	542,493	570,278	-4.9%

米国会計基準(GAAP)外の財務指標

本書には、当社の米国会計基準(米国GAAP)の基準により計算されていない財務指標(米国GAAP外の財務指標)への参照が行われる。これらの財務指標は、全般的な経済情勢や事象に影響され、あるいは保険事業に直接関係しない数少ない取引に関連する傾向にあるため、保険事業の基盤や傾向を必ずしも正確に反映していない可能性がある」と当社が考える項目を除外したものである。

日本円を機能通貨とするアフラック(日本)の規模が大きいため、円/ドル為替レートの変動は当社の報告業績に対して著しい影響を与え得る。円安に推移する期間においては、円貨のドル貨への換算においてはより少ないドル貨で報告される。円高に推移する期間においては、円貨のドル貨への換算においてはより多くのドル貨で報告される。このように、円安は、前年同期との比較において当期の業績を押し下げ、円高は、前年同期との比較において当期の業績を押し上げる効果がある。当社の事業の非常に大きな部分が円で行われており、米国GAAPによる報告の目的のために、これがドルに換金されることはないものの、ドルに換算されることから、為替変動は、米国GAAPに基づく利益、キャッシュ・フロー及び純資産に影響を与える。経営陣は、当社の財務業績を、為替換算の影響を含む場合と除く場合の双方で評価し、為替変動の累積的な影響及び為替変動の影響を除く経営成績の推移をそれぞれ監視している。平均円/ドル為替レートは、株式会社三菱UFJ銀行が公表する対顧客電信仲値(TTM)に基づいている。

当社は、本書に含まれている米国GAAP外の財務指標を以下の通り定義している。

・調整後利益は、調整後収益から保険金給付金及び調整後費用を差引いたものである。1株当たり調整後利益(基本あるいは希薄化後)は、当該期間の調整後利益を期中の加重平均発行済株式数(基本あるいは希薄化後)で除したものである。収益及び費用に対する調整は、全般的な経済情勢や事象に影響される傾向にあり、あるいは保険事業に直接関係しない数少ない取引に関連するため、経営のコントロールが及ばない一部の項目から構成される。調整後収益は、調整後資産運用損益(純額)を除いた米国GAAPベースの収益合計である。調整後費用は、社債等に係るデリバティブからの利息の影響額を含み、当社の保険事業の通常の業務に関係せず当社の基礎となる業績を反映しない非経常的損益及びその他の損益を除く、米国GAAPベースの新契約費及び事業費の合計である。当社経営陣は、当社の連結ベースの保険事業の財務業績を評価するにあたっては、調整後利益及び希薄化後1株当たり調整後利益を用いている。また、これらの財務指標を表示することは、当社の保険事業に内在する利益の原動力や傾向を理解するに際して、極めて重要であると当社経営陣は確信している。調整後利益及び1株当たり調整後利益(基本あるいは希薄化後)と最も比較可能な米国GAAPの財務指標は、それぞれ当期純利益及び1株当たり当期純利益である。

・当期における為替変動の影響を除く調整後利益は、比較対象の前年同期における平均為替レートを用いて計算されており、これにより、為替レートの変化のみによってもたらされる変動を消去している。当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益は、当該期間の為替変動の影響を除く調整後利益を期中の加重平均発行済株式数(希薄化後)で除したものである。当社は、当期における為替変動の影響を除く調整後利益及び当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益は重要であると考えている。なぜなら、当社の事業の重要な部分は日本で行われており、為替レートは経営のコントロールの及ばないものだからである。したがって、当社は米ドルに対する為替換算(主として日本円)の影響について理解することは重要であると考えている。当期における為替変動の影響を除く調整後利益及び当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益と最も比較可能な米国GAAPの財務指標は、それぞれ当期純利益及び1株当たり当期純利益である。

・調整後株主資本利益率は、年換算した調整後利益を、その他の包括(損)益累計額(AOCI)を除く平均株主持分で除したものである。当社経営陣は、当社の連結ベースの保険事業の財務業績を評価するにあたっては、調整後株主資本利益率を用いており、この財務指標を表示することは、当社の保険事業に内在する利益の原動力や傾向を理解するに際して、極めて重要であると確信している。調整後株主資本利益率は、経営のコントロールの及ばない市場の動向によって変動するAOCIの要素を除いていることから、当社はこの指標は重要であると考えている。調整後株主資本利益率と最も比較可能な米国GAAPの財務指標は、平均株主資本利益率(ROE)であり、これは年換算した当期純利益と平均株主持分を用いて決定される。

・外貨再測定を除く調整後株主資本利益率は、年換算した調整後利益を、その他の包括(損)益累計額並びに、i)外貨再測定およびii)投資資産の売却および償還に伴う(2021年1月1日からの)累積外貨損益を除く平均株主持分で除したものである。外貨再測定を除く調整後株主資本利益率は、経営のコントロールの及ばない市場の動向によって変動するその他の包括(損)益累計額および累積外貨再測定損益を除いていることから、当社はこの指標は重要であると考えている。外貨再測定を除く調整後株主資本利益率と最も比較可能な米国GAAPの財務指標は平均株主資本利益率であり、これは年換算した当期純利益と平均株主持分を用いて決定される。

・ヘッジ費用／収益の償却額は、当社の日本セグメント又は全社（アフラック（日本）及びアフラック（米国）を除く）及びその他における、一部の為替リスクをヘッジするために為替デリバティブを用いた結果生じる、あるいは認識されるものである。これらのヘッジ費用／収益の償却額は、個々の契約に固有の条件に基づくデリバティブの取引開始時に評価され、デリバティブの契約期間にわたって、定額で認識される。当社は、調整後利益の要素であるヘッジ費用／収益の償却額は、一部の為替変動リスクのヘッジに係る定期的な為替リスク管理費用／収益を計測するものであり、投資収益（純額）の重要な要素であると確信している。ヘッジ費用／収益の償却額と比較可能な米国GAAPの財務指標はない。

・調整後純資産額は、米国GAAPに基づく純資産額（株主持分合計）から、米国GAAPに基づき貸借対照表に記録されたその他の包括（損）益累計額を控除したものである。普通株式1株当たり調整後純資産額は、当該期末の調整後純資産額を当該期末の発行済普通株式数で除したものである。当社は、経営のコントロールが及ばない市場動向によって変動するその他の包括（損）益累計額を除外するという点で、調整後純資産額及び普通株式1株当たり調整後純資産額は重要なものであると考えている。調整後純資産額及び普通株式1株当たり調整後純資産額と最も比較可能な米国GAAPの財務指標は、それぞれ純資産合計及び普通株式1株当たり純資産合計である。

・外貨再測定を除く調整後純資産額は、米国GAAPに基づく純資産額（株主持分合計）から、米国GAAPに基づき貸借対照表に記録されたその他の包括（損）益累計額を控除し、i)外貨再測定およびii)投資資産の売却および償還に伴う（2021年1月1日からの）累積外貨損益を除いたものである。外貨再測定を除く普通株式1株当たり調整後純資産額は、期末の外貨再測定を除く調整後純資産額を当該期末の発行済普通株式数で除したものである。外貨再測定を除く調整後純資産額及び外貨再測定を除く普通株式1株当たり調整後純資産額は、経営のコントロールが及ばない市場の動向によって変動するその他の包括（損）益累計額および累積外貨再測定損益を除いていることから、当社はこれらの財務指標は重要であると考えている。外貨再測定を除く調整後純資産額及び外貨再測定を除く普通株式1株当たり調整後純資産額と最も比較可能な米国GAAPの財務指標は、それぞれ純資産合計及び普通株式1株当たり純資産合計である。

・調整後投資収益（純額）は、投資収益（純額）に以下の調整を加えたものである。i) 外国為替のエクスポージャーへの管理戦略及び特定のデリバティブ活動に関連するヘッジ費用／収益の償却額、ii) 特定の投資戦略に係る為替及び金利デリバティブからの受取利息／支払利息（純額）のうち、資産運用（損）益（純額）から投資収益（純額）に区分変更されたもの。調整後投資収益（純額）は、当社の投資及びこれに関連するヘッジ戦略に係る費用と収益のより包括的な理解を提供することから、当社は、これを重要な指標と考えている。調整後投資収益（純額）と最も比較可能な米国GAAPの財務指標は、投資収益（純額）である。

・調整後資産運用損益（純額）は、資産運用損益（純額）に以下の調整を加えたものである。i) 外国為替のエクスポージャーへの管理戦略及び特定のデリバティブ活動に関連するヘッジ費用／収益の償却額、ii) 特定の投資戦略に係る為替及び金利デリバティブからの受取利息／支払利息（純額）のうち、投資収益（純額）に区分変更されたもの、及び iii) 社債等に係るデリバティブからの利息の影響額のうち、調整後費用合計の要素として支払利息に区分変更されたもの。調整後資産運用損益（純額）は、経営のコントロールが及ばないと考えられている残余の金額を示す一方、経営のコントロールが及ぶ要素を除き、それらを投資収益（純額）及び支払利息に区分変更していることから、当社は、これを重要な指標と考えている。調整後資産運用損益（純額）と最も比較可能な米国GAAPの財務指標は、資産運用損益（純額）である。

当期純利益から調整後利益への調整
(単位:百万ドル。ただし、1株当たりの数字を除く―無監査)

3月31日に終了した3ヶ月間:

	<u>2025</u>	<u>2024</u>	<u>増減率</u>
当期純利益	29	1,879	-98.5%
調整後利益への調整項目:			
調整後資産運用損(益)(純額)	924	-1,009	
その他及び非経常的損(益)	53	2	
調整後利益への調整項目に係る法人税(軽減額)費用	-100	89	
調整後利益	906	961	-5.7%
当期における為替変動の影響 ¹	8	非適用	
当期における為替変動の影響を除く調整後利益 ²	914	961	-4.9%
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	0.05	3.25	-98.5%
調整後利益への調整項目(単位:ドル):			
調整後資産運用損(益)(純額)	1.69	-1.75	
その他及び非経常的損(益)	0.10	-	
調整後利益への調整項目に係る法人税(軽減額)費用	-0.18	0.15	
希薄化後1株当たり調整後利益(単位:ドル)	1.66	1.66	-%
当期における為替変動の影響 ¹ (単位:ドル)	0.01	非適用	
当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益 ² (単位:ドル)	1.67	1.66	0.6%

¹ 為替変動については、その影響額を当期に限定するため、前期の影響額は「非適用」とした。

² 当期における為替変動の影響を除く金額は、比較対象の前年同期における平均為替レートを用いて計算されており、これにより、為替レートの変化のみによってもたらされる変動を消去している。

資産運用損(益)(純額)から調整後資産運用損(益)(純額)への調整

(単位:百万ドルー無監査)

3月31日に終了した3ヶ月間:

	<u>2025</u>	<u>2024</u>	<u>増減率</u>
資産運用損(益)(純額)	963	-951	-201.3%
調整後資産運用損(益)への調整項目:			
ヘッジ費用の償却額	-7	-6	
ヘッジ収益の償却額	30	28	
特定の投資戦略に係るデリバティブからの受取利息(支払利息)(純額)	-65	-88	
社債等に係るデリバティブからの利息の影響額 ¹	4	8	
調整後資産運用損(益)	924	-1,009	-191.6%

¹金額は、調整後費用の要素である支払利息に含まれている。

投資収益(純額)から調整後投資収益(純額)への調整

(単位:百万ドルー無監査)

3月31日に終了した3ヶ月間:

	<u>2025</u>	<u>2024</u>	<u>増減率</u>
投資収益(純額)	955	1,000	-4.5%
調整後投資収益(純額)への調整項目:			
ヘッジ費用の償却額	-7	-6	
ヘッジ収益の償却額	30	28	
特定の投資戦略に係るデリバティブからの受取利息(支払利息)(純額)	-65	-88	
調整後投資収益(純額)	913	934	-2.2%

米国GAAPに基づく純資産額から調整後純資産額への調整

(外貨再測定を除く)

(単位:百万ドル。ただし、株式数及び1株当たりの数字を除く―無監査)

3月31日現在:

	<u>2025</u>	<u>2024</u>	<u>増減率</u>
米国GAAPに基づく純資産額	26,338	23,537	
減算:			
外貨換算未実現(損)益	-4,549	-4,666	
保有有価証券及びデリバティブに係る未実現(損)益	-1,251	1,066	
割引率の前提条件変更による影響	3,899	-1,495	
年金債務当期調整額	42	-7	
その他の包括(損)益累計額合計(AOCI)	-1,859	-5,102	
調整後純資産額	28,197	28,639	
減算:			
外貨再測定(損)益	5,083	4,868	
外貨再測定を除く調整後純資産額	23,114	23,771	
期末発行済株式数(単位:千株)	542,493	570,278	
普通株式1株当たりの米国GAAPに基づく純資産額(単位:ドル)	48.55	41.27	17.6%
減算:			
普通株式1株当たりの外貨換算未実現(損)益	-8.39	-8.18	
普通株式1株当たりの保有有価証券及びデリバティブに係る未実現(損)益	-2.31	1.87	
普通株式1株当たりの割引率の前提条件変更による影響	7.19	-2.62	
普通株式1株当たりの年金債務当期調整額	0.08	-0.01	
普通株式1株当たりのその他の包括(損)益累計額合計(AOCI)	-3.43	-8.95	
普通株式1株当たりの調整後純資産額	51.98	50.22	3.5%
減算:			
普通株式1株当たりの外貨再測定(損)益	9.37	8.54	
普通株式1株当たりの外貨再測定を除く調整後純資産額	42.61	41.68	2.2%

米国GAAPに基づく株主資本利益率(ROE)から調整後ROEへの調整 (為替変動の影響を除く)

3月31日に終了した3ヶ月間:

	<u>2025</u>	<u>2024</u>
当期純利益 - 米国GAAPに基づく株主資本利益率(ROE) ¹	0.4%	33.0%
外貨換算未実現(損)益を除いた影響	-	-5.1%
保有有価証券及びデリバティブに係る未実現(損)益を除いたことによる影響	-	1.3%
割引率の前提条件変更の影響を除いたことによる影響	-	-2.4%
年金債務当期調整額を除いたことによる影響	-	-
その他の包括(損)益累計額(AOCI)を除いたことによる影響	-	-6.2%
その他の包括(損)益累計額(AOCI)を除いた米国GAAPに基づくROE	0.4%	26.8%
調整後利益と当期純利益の差異 ²	12.2%	-13.1%
報告された調整後ROE	12.7%	13.7%
減算: 外貨再測定に伴う利益(損失)を除いた影響額 ³	2.9%	2.5%
外貨再測定を除く調整後ROE	15.6%	16.2%

¹米国GAAPに基づくROEは、(年換算した)当期純利益を平均株主資本で除して計算されている。

²当期純利益から調整後利益への調整については、別表を参照のこと。

³外貨再測定に伴う損益の影響は、i)外貨再測定、およびii)投資資産の売却および償還に伴う(2021年1月1日からの)累積外貨損益を除いて再修正することにより算出される。その影響は、外貨再測定に伴う損益を株主資本から除いた調整後株主資本利益率と、報告された調整後株主資本利益率の差となる。

為替変動の調整後業績への影響¹
(主要項目の前年同期比増減率―無監査)

2025年3月31日に終了した3ヶ月間:

	為替変動の 影響を含む	為替変動の 影響を除く ²
保険料収入(純額) ³	-2.2%	-0.7%
調整後投資収益(純額) ⁴	-2.2%	-1.6%
保険金給付金及び事業費合計	-1.8%	-0.5%
調整後利益	-5.7%	-4.9%
希薄化後1株当たり調整後利益	0.0%	0.6%

¹調整後利益及び希薄化後1株当たり調整後利益については、前記の定義を参照のこと。

²為替変動の影響を除く金額は、比較対象の前年同期における為替レートを用いて計算されており、これにより、為替レートの変化のみによってもたらされたドルベースの変動を消去している。

³出再保険控除後。

⁴調整後投資収益(純額)については、前記の定義を参照のこと。

予測情報について

1995 年の私的証券訴訟改革法は、企業に対して、いわゆる「安全港」の規定を設けています。規定によれば、その記述が将来予測に関する記述（forward-looking statement）として特定され、将来予測に関する記述に含まれる内容と大きく異なる結果を引き起こす可能性がある重要な要素を記した有意義な警告を伴うならば、自社の見通しに関する情報を積極的に提供するよう奨励しています。当社は、この規定を活用したいと考えています。本書は、将来の見通しと大きく異なる結果を引き起こす可能性がある重要な要素を記した警告を記載しています。こうした将来の見通しは、本書の中、あるいはアナリストと当社役職員との議論、米国証券取引委員会（SEC）に提出された文書の記述に含まれています。

将来予測に関する記述は、過去の情報に基づくものではなく、将来の事業、戦略、財務業績及びその他の進展事項に関するものです。更に、将来予測に関する情報は、さまざまな仮定や、リスク、不確定要素から影響を受けます。特に、「予想する」「予測する」「確信している」「目標」「目的」「可能性がある」「すべきである」「推定する」「意図する」「見積もる」「するつもりである」「仮定する」「潜在的」「対象」「見通し」、あるいはその他の類似した言葉を含む記述、また将来の結果についての特定の予測は一般に将来予測に関する記述です。当社は、将来予測に関する記述について、最新情報を提供する義務を負いません。

当社が随時言及している事項のほかに、将来予測に関する記述と大きく異なる結果を引き起こす可能性がある事項は以下のとおりです。

- ・ インフレーションを含む世界資本市場及び経済の困難な状況
- ・ 投資先の債務不履行及び信用格付けの引き下げ
- ・ 世界的な金利の変動及び重要な金利リスクに対するエクスポージャー
- ・ 日本に対する事業の集中
- ・ 当社の条件に合致する円建て有価証券の限られた入手可能性
- ・ 円/ドル為替レートの変動
- ・ 運用資産の評価に適用される異なる解釈
- ・ 当社の運用資産に対して計上される予想信用損失の決定における重要な評価判断
- ・ 当社の財務力又は債務格付けの引き下げ
- ・ 他の金融機関の信用力の低下
- ・ 優秀な募集人、ブローカー、社員及び販売提携先を引きつけ、維持する当社の能力
- ・ 保険料率の設定や責任準備金の算定に用いる仮定と実績の乖離
- ・ 情報システムの開発・改善を継続する能力、また、収益拡大及び費用管理の取組みを効果的に実行する能力

- ・ 電気通信、情報技術及びその他の業務システムにおける障害、あるいはそのようなシステムに収録されているセンシティブなデータに関する安全性、機密性、保全性又はプライバシーの維持の失敗
- ・ 子会社が親会社に配当金を支払う能力
- ・ 当社に固有なリスク管理方針及び手続の限界
- ・ 第三者の取引業者に係る業務運営リスク
- ・ 当社に適用される税率変更の可能性
- ・ 契約者のプライバシー及び情報セキュリティに関する規則の遵守の失敗
- ・ 広範囲な規制及び法律又は政府当局による規制の変更
- ・ 競合環境及び市場のトレンドを予測し対応する能力
- ・ 気候変動によりもたらされる事象、伝染病、パンデミック、竜巻、ハリケーン、地震、津波、戦争あるいはその他の軍事行動、公衆衛生上の重大な問題、テロ行為あるいはその他の暴力行為を含む大惨事及びそれに付随して起こる被害
- ・ アフラックブランドと当社の評判を守る能力
- ・ 主要な経営陣メンバーの後継者を効果的に選出する能力
- ・ 会計基準の変更
- ・ 訴訟あるいは規制当局による調査の内容及び結果
- ・ 米国における労働者の誤分類に関する主張あるいは判決